



# 会報

一般社団法人 人間力認定協会

理解は支援の第一歩！

支援の輪を拡げよう！

## 延べ受講者数5万名を突破

### 現場の声を力に変える取り組み！

いつも当協会の理念にご賛同いただき、心より感謝申し上げます。お陰様で、累計受講者数は5万名を超えるまでになりました。また新たに、名古屋市にある専門学校より児童発達支援士、発達障害コミュニケーションセッションサポーターの導入についてご相談をいただくなど、支援の輪が着実に拡がっていることを実感しております。

このたび新たな試みとして「発達障害に関する調査報告書」を作成いたしました。本調査報告書は、全国の教育委員会や療育施設、幼稚園・保育園などへ無償で情報提供を行っています。発達障害に関する情報は徐々に広まりつつありますが、現場で実際に役

立つ情報が体系的に整理された資料は、まだ十分とは言えないのが現状です。当協会の調査報告書が、日々現場で奮闘されている支援者の皆様のお役に立てましたら幸いです。

さらに、調査報告書をより身近に感じていただく取り組みとして、Instagramでのライブ配信も行っています。癪癪を起こした際の対応方法や、片付けができないときの関わり方など、誰もが直面しやすい具体的な悩みをテーマに、わかりやすく解説しています。私たちは「理解は支援の第一歩」を合言葉に活動しています。今後も皆様と共に支援の輪を拡げていけるよう努めてまいりますので、引き続きご協力をお願い申し上げます。

### 理事長コラム

いつも当協会の活動を支えてくださる皆様に、心より感謝申し上げます。おかげさまで受講者数は5万人を超え、多くの現場に支援の輪が広がっています。その一つひとつに、悩み、葛藤し、それでも前に進もうとする方々の想いがあります。

私たちは、その声に真正面から向き合い、「理解は支援の第一歩」という理念を胸に活動してきました。支援に正解はありません。だからこそ、学び合い、支え合い、共に歩むことが何より大切だと信じています。

これからも現場と共に、一人でも多くの方が希望を持てる社会の実現に全力で取り組んでまいります。皆様とともに積み重ねてきた歩みを礎に、これからの一歩一歩を大切に重ねてまいります。

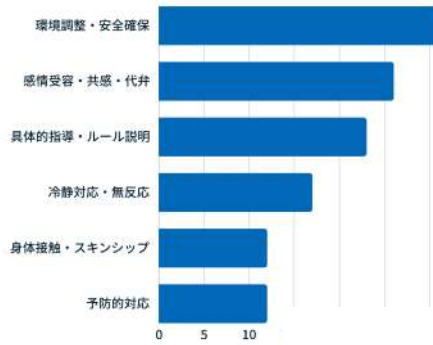
一般社団法人 人間力認定協会  
代表理事 井上智之



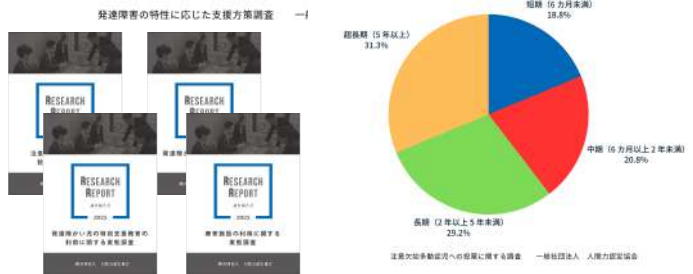
# 発達障害に関する調査報告書



## Q.痙攣・パニック・感情コントロールが出来ない時の対応



## Q.投薬期間



### 研究チームによる調査報告

このたび当協会では「発達障害に関する調査報告書」を作成・公開いたしました。現在公開している調査報告書は5つあり、いずれも発達障害のある子どもや保護者、支援者の方々の声をもとに構成されています。

調査報告書は、専門家の意見や理論だけでなく、実際の支援現場や家庭で起きていることを可視化し、共有するための資料です。

今回の調査では、保護者や支援者が日々感じている悩みや戸惑い、支援の中で生まれた気づきなどをアンケート形式で収集し、その結果を整理・分析しました。数値や割合といったデータだけでなく、自由記述から見えてくる「思い」や「背景」にも目を向け、発達障害支援の現状と課題を多角的に

まとめています。そこからは、特性そのものだけでなく、環境との関係性や周囲の理解の重要性が浮かび上がってきました。

私たちが公開している調査報告書は皆様に、支援における唯一の「正解」を示すものではありません。しかし、同じ立場の方が自分だけではないと感じられること、支援者同士が視点を共有し合えること、そして今後の支援や関わり方を考えるきっかけになることを目的としています。

今後も現場の声を大切にしながら、発達障害理解を深める情報発信を続けてまいります。

調査報告書は下記より  
ご覧ください  
<https://ninkyou.jp/library/>



# 静岡市特別支援教育センター 所長と支援に関する意見交換



## 所長との意見交換

先日、当協会事務局長の望月が静岡市教育委員会学校教育課 特別支援教育センター所長との意見交換の機会をいただきました。

当協会がまとめた調査報告書「注意欠如多動症児への投薬に関する調査報告書」をお渡しし、現場の状況や課題について意見を伺うための大切な時間となりました。

静岡市特別支援教育センターでは、特別支援教育に関する相談窓口の運営や幼児言語教室の開催、教職員向けの研修など、子どもたちと保護者を支える多様な活動が行われています。訪問中には言語教室の様子も拝見し、丁寧な支援体制を実感しました。

意見交換では、当協会が調査を通じて得られた保護者の声を共有し、それを受

けた所長から学校現場での具体的な取り組みやご苦労について伺いました。支援学級の児童が通常学級での交流を深めるため、行事を通じて関係を築く工夫や、教員が専門研修を受け続ける重要性など、多くの実践例が紹介されました。

一方で、調査のテーマとなった「投薬」に関する情報については、学校現場では十分な理解が進んでいないという課題も共有されました。副作用は学校生活の中では見えにくい側面があり、保護者と学校の連携や情報共有の在り方が今後の支援において大きな鍵になるとのお話でした。

この意見交換を通じて、当協会は現場の声を尊重しつつ、発達障害支援の実践と理解を深める活動をこれからも進めてまいります。

# 拡がる認定支援士の輪

## 新たにご登録いただいた認定支援士のご紹介

(2025.9.1 ~ 2026.2.28 ご登録者)

個人情報保護のため、ぼかしを入れています

## 認定支援士より頂いたメッセージをご紹介します

(全員のメッセージを紹介しきれないため、今回は一部の支援士のみご紹介します)

西  
エリ  
ア

団体名なし

徳元美智子さん

―資格取得のきっかけは？

息子がASD、ADHDです。日々の困りごとから、様々な分で調べたり、支援級の先生や児童精神科の先生などに相談しますが、それでも毎日息子の言動や行動が理解できずに悩む日が続いていました。そんな時にこの資格のことをインターネットやSNSで知り、もつと自分の子どものこととを理解したい、共に成長していきたい、と思いきずは資格を取ろうと思いました。

―知識を習得して変化は？

なぜそんな行動をするのかと、わからないことが多かった分、勉強を進めて行くにつれ、発達障害に対して深く理解でき、息子への接し方も変わりました。

九  
エリ  
ア

団体名なし

匿名希望さん

―支援をして辛かった事は？

特別支援学級担任をもったことで、ASDやADHD、LDの特性を持った児童と関わる中で、未経験で発達障害の専門的な知識もなく、どう接したらよいか分からず、本当に苦しかったです。児童本人が一番理解してもらえない苦しみを抱えていたと思います。自分なりに特性を理解しようと心がけていても、児童の不安感や困り感に気づけず、傷つけてしまうことがありました。そのことで、児童との信頼関係を築くまでの道のりが果てしなく遠く感じてしまいました。自分のこれまでの価値観を捨てて、児童の特性を受容していくことがとても大変でした。

東海エリア

団体名なし  
**西村 真希さん**

―支援をして辛かった事は？  
なにが子どもへ合うのか、子どもと支援員との相性もあり上手く子どもがなじめない時がたらく感じました。

―知識を習得して変化は？  
発達支援などを学んで子どものがまが原因でないことに気付くことができました。

―似た境遇の方にアドバイス  
親が悪いわけでもなく、子どもの育て方を間違ったと思わないでほしいと思います。子どものわがままではないことも知っていたら、子どもの特性をもっとゆっくり覗いて上げられれば、子どもも親も悩まずにともに歩いていくことが出来るようになります。一人ではないことに気がつくきっかけになればと思います。

中部エリア

団体名なし  
**片桐 慎祐さん**

―知識を習得して変化は？  
知識を学んだことで、支援における視点が大きく変わりました。以前は困った行動に直面すると戸惑いや不安を感じることが多かったのですが、学びを通して「行動には必ず理由がある」と理解できるようになりました。

例えば、パニックの背景に「感覚過敏」や「予測不能な変化への不安」があると知ること、先回りして準備をしておいて、安心できる環境を提供できるようになりました。その結果、児童生徒との関わり方が落ち着きました。今回得た知識は児童生徒の成長を支える力であると実感しました。

中国エリア

団体名なし  
**百本 恵美さん**

―似た境遇の方にアドバイス  
似たような環境の方と繋がったり、学校や放課後デイ等の先生方とも仲良くなつてサポート体制を整えられたら、ほんの少しでも心が軽くなるように思います。

―支援で大切なことは？  
世の中は『普通』を中心に動いています。何をもちて普通なのか、よく分からないところもあります。『普通』が障がい児を生きにくくしているのか、その子が何に困っているのか、どうして欲しいのか、少しでも理解して支援が行えると、普通に生きやすくなるのかなと感じます。

～アンケートのご協力依頼～

**療育エピソードを募集しています**

皆様がこれまでに経験してきたことは、これから経験する方にとって財産となります。当協会では療育エピソードとして体験談を募集し、受講者の皆様に共有しています。体験談が多ければ多いほど救われる方は増えます。ご協力願下さい！

●特に募集中のエピソード●

- ・カサンドラ症候群に関するエピソード
- ・子どもに発達障害であることをどう伝えたか
- ・アンガーマネジメントに関するエピソード
- ・感覚過敏 / 鈍麻に関するエピソード



療育エピソードサイト  
<https://ninkyou.jp/member>  
(協会 LINE から簡単にアクセス可)